
すとらいかあず～叙事的魔導師～

へたれん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すとりいかあずく叙事的魔導師く

【Nコード】

N1099I

【作者名】

へたれん

【あらすじ】

管理局員魔導師。そして例の彼女達の弟分的存在の主人公が織り成す物語

オリキャラを紹介します

如月玲ステータス

魔力保有量A A A

魔導師ランクA A A +

管理局

使用魔法術式…ミッドチルダ及び近代ベルカ

管理局の魔導師で普段は管理世界事件捜査部第三課所属。しかしこの部署は『雑務官』と呼ばれる事が多い。その理由はこの部署は様々な部署に出向するためである

5歳の時に母親に地球で拾われた過去を持ち、その母親の繋がりです八神家やなのは、フェイトと知り合い、それからは姉のように慕っている。

見た目は黒のセミロングの髪と中々にかわいらしい顔、そして右耳の二つのピアスが特徴なのだが、いつもやる気なさそうにしているのでかわいらしい顔が台なしらしい。

性格は無気力まっしぐらだがやる時はやるタイプ。

自らの敵に対しては一切の容赦をしない性格。普段は温厚だが戦闘の際には苛烈（本人いわく『ドS』）な一面を見せ、その敵は思わず恐怖を覚えるという

ちなみに地球の漫画と甘い物が大好き

ちなみに玲が魔法に本格的に出会い学び始めたのは11年前なので、実はなのは、はやてより魔法歴が長い。闇の書事件の際は母親とその使い魔が高度な隠蔽術式を使って守っていたので感知されなかった。

魔導師ランクは空戦A A A +

戦闘スタイルは中々近距離を特に得意とするオールラウンダー（シグナムいわく良く言えば『万能』で悪く言えば『中途半端』）

使用する魔法は斬撃系が多い。射撃に関しては、誘導を苦手とする為、なのはそのような誘導性に優れたものではなく、弾速、貫通性に優れた『刃』を飛ばす感覚で、フェイトに近い。

分析力に優れ、魔法展開が早く、それにより今のランクを手にして

いる。

その戦闘スタイル故に、一対一の白兵戦を得意とするが、一応対多数での戦闘もそつなくこなす。

得意な作戦は襲撃戦

射撃…A

射撃誘導…C

射速…A A A +

展開速度…S S

魔力圧縮…A A A +

斬撃…S +

移動速度…A A A +

格闘センス…A A A

パワー…A A +

剣技…A A A

シールド…A A A +

バリア…A A +

フィールド…A +

バックアップ…A

体力…B

くデバイスく

『アステリズム』

リボルバー型カートリッジシステム搭載の剣型インテリジェントデバイス

玲のために今は亡き母親とその使い魔が作ったデバイス

主である玲をいじる様子が度々目撃されるが、忠誠心は厚く、玲を

心配している。玲以外の人物をよくけなしているので玲は冷や冷やしている

通常デバイスには防御系魔法等をオートでプログラムする場合が多いのだが、玲は展開速度がデバイスのそれと同等かそれ以上なので、アステリズムには魔力感知魔法等、サポート系魔法のみをプログラムしてある。

待機状態はワインレッドの腕輪

フォルム1st

『マルチフォルム』

ロングソード型。ほとんどの戦いをこのフォルムで切り抜ける。剣としてだけではなく、斬撃魔法使用もこなせる万能型

フォルム2nd

『スプリットフォルム』

身の丈程もある長剣。目標をただ叩き切る事を目的とした格闘特化型
フォルム3rd

『ディアブロフォルム』

二振りのロングソードの二刀流型。扱いにくいらしい

スキル(?)

カリキュレート・アクセラレータ
『演算加速』

通常、魔法発動の際には幾つかのプロセスや術式を経過する必要がある。更に、大出力や広域展開型の魔法を発動させる場合程そのプロセスや術式は長くなる。

しかし玲は、その能力故にそのプロセスの何段階かを無意識の内に高速処理、省略、展開する事で通常の魔導師よりも速く魔法が展開出来る。

しかし玲は砲撃魔法をあまり得意としないのでその能力は斬撃や高速防御に役立つ。玲の攻撃的なオールラウンド戦闘スタイルの確立

に一役買っている。また、はやてのような大規模術式はプロセスが膨大すぎて無意識の処理が追いつかないためにこのスキルは使えない（無理に使うと魔力が体内暴発する）し、並列運用にも限度がある（こちらも同様）。

第一章『再会と出会い』（前書き）

削除してすいませんでした。玲の設定に変更を加えてやり直します

第一章『再会と出会い』

第一章「再会と出会い」

少年「眠いなあ…」

眠気を誘うポカポカとした陽気。ミッドチルダは春爛漫のようだし、そしてここはミッドチルダ湾岸部のとあるリニアレールの駅。そしてその駅前に眠そうにスーツケースを持ちながら佇む長めの真っ黒な髪の毛に片耳にはピアスの少年が一人。

そんなだらけた彼の名前は如月玲。16歳。私服だが一応管理局の魔導師だ。ランクはA A A +、階級は三等空尉のそこそこなエリートだったりする

玲「誰が迎えに来るんだったかな…」

玲が左腕の腕時計を確認しながら呟くとそれに右腕の腕輪が反応した。彼のデバイスのアステリズムである

アステリズム「おそらくはミス・八神か、ミス・ハラオウンではないかと。ミス・高町は教導でお忙しいと伺いました」

玲「まあ誰でもいいんだけどさ…。それにしても相変わらず人使いが荒いよなあはやてさんは…。俺クラナガンに引っ越したばかりなのにもう新居とお別れだよ…。まあ賃貸だけど…。それにあのオッサンも昨日いきなり『お前明日から六課に転属だから』だと…。ふざけるんじゃないよ…」

デバイスに愚痴を零す玲。

アステリズム「私に愚痴を零さないで下さい。そんな事よりも緊急回線で携帯に連絡が来ているようですがどうしますか」

玲「…出るに決まってるだろ馬鹿。」

そして携帯を確認すると成る程、八神はやてから連絡だ

玲「はい、如月三等空尉ですが」

玲は管理局員としての態度で通信に応じる

はやて「玲！悪いんやけど今から指定するポイントに大至急向かってくれへん？ガジェットがいてるんよ。今はなのはちゃんとフェイトちゃんとリインとFW陣が出るんやけど、いかんせんFW陣は初陣やから…、荷物は駅に預けといてくれれば誰かに取りに行かせるわ。飛行許可はもう出てるからな」

玲「はいはい…解りましたよ（…面倒だなあ）」

はやて「ほな頼むで！」

はやては通信を切った

玲「だによ？今日はあれか？あらゆる朝のワイドショーの占いで俺の星座やら血液型やら名前やら色がビリなのか？」

アステリズム「受け入れなさい。これも運命です。ちなみに今日は蟹座は8位でした」

玲「そうかいそうかい。」

玲は苦笑して携帯を切って、荷物を駅に預けて再び駅前に戻る

玲「さて…面倒だけど行きますか…。後でなんか甘いものをおごってもらおうでしょう。アステリズム、セットアップだ」

アステリズム「了解。セットアップ。バリアジャケット、エアフォースモード」

玲が眩しい光に包まれたかと思うと、次の瞬間には黒のロングコートにグレーのインナーのバリアジャケットを身に纏い、右腕には剣となったアステリズムを携えている。そして何より目を引くのは背中から飛び出した白い翼。一応空中での姿勢制御用である。ここまでする必要があったのかは疑問だが。しかしその翼は玲の二つ名『黒の天使』ブラックアンジェリカの由来である

玲「じゃ…行こうかな。」

玲は飛び上がり、空へと舞い上がった。本当は転位魔法を使った方が早いのだが、そう簡単に使える代物ではない。

いかにも面倒臭そうに空へと舞い上がり、かなりの高度まで上昇。

玲「アステリズム、場所は何処だっけ？」

アステリズム「ここから南々西に30分程飛行した場所のリニアレールのです」

玲「…最近ガジェットの間ではトレインジャックでも流行ってるの

か？」

アステリズム「そんな訳無いでしょう。レリックが輸送されてるんですよ」

アステリズムのその言葉に玲は小馬鹿にしたように溜息をついて

玲「おいおい、レリックをリニアレールで運ぶなんて、笑える冗談だな…。大体さ、なのはさんとフェイトさんがいるんだろ？はやてさんは自分の部隊を信用してないのかね」

そんな愚痴をデバイスに零しつつ戦闘領域に到達する。リニアレールの上では資料で見たFW陣らしき人影がガジェットと戦っている。

玲「ほお…、あれは中々…。特にあの赤毛の少年がやるねえ。」

そこで玲は念話で連絡をつける事にした

玲「（高町一尉、ハラOWN執務官。お久しぶりです。如月玲三等空尉、八神部隊長の要請を受けてただ今到着しました。）」

なのは達とは8年の付き合いなので普段は特に気を使わないが、一応管理局員として話す

するとすぐに反応が帰ってくる

なのは「（玲？もうすぐ空は片付くからリニアレールの方を助けてあげてくれる？）」

フェイト「（そうだね…、悪いけどお願いできるかな？）」

玲「（（解りました。））さて、スクラップ作りの始まりだ。行くぞアステリズム」

アステリズム「お任せあれ」

そして玲はリニアレールに向かって翼を羽ばたかせる。そこに邪魔するようにガジェットが割って入る

しかし

玲「邪魔。お前がスクラップ第一号だ。アルテミス・エッジ」

玲が右手を軽く振るうと、灰色の魔力の刃が玲の周りから射出され、ガジェットを爆砕する。

玲「うん…、まあまあだね。てかこんな物作ってすぐ壊されるんじや金の無駄だよな…。同情するよ」

そしてリニアレールの屋根に降り立ち、どうやって入るか悩んだ末に

玲「…まあいいか♪ムーンハーケン」

ニヤリと笑うとあろう事かアステリズムを振るい斬撃を飛ばして屋根を切って剥がした。剥がれた屋根はどこかへ飛んでいく。

玲「失礼♪」

そして車両にを移動する

するとガジェットと戦うオレンジツインテールの少女が居る。しかしどうやら前の敵に夢中で後ろに迫るガジェットに気付いていない

らしい

玲「（このまま見てるのもまた一興だけだな）」

アステリズム「馬鹿な事言っでないで早く殺りなさい」

玲「（はいはい）そらよ。ロードカートリッジ。」

玲はアステリズムにカートリッジを挿入し、アステリズムがカートリッジをロードする

玲「フォルム2nd」

アステリズム「了解、スプリットフォルム」

するとアステリズムの刀身が延長し、身の丈程の長剣になる

玲「スクラップ！」

玲はそのまま少女の背後にあるガジェットにアステリズムをぶった切った。それとほぼ同時に少女も自分のガジェットを撃破したらしく、後ろを振り返る。そして玲に気付くと銃型のデバイスを突き付けて来た

少女「あんた誰っ!？」

玲は面倒臭そうに溜息をついている

少女「手を挙げて! 答えなさい!」

しかし玲は手を挙げるそぶりすら見せないで

玲「俺を逮捕して仕事を全うします？ 殊勝だが現実的じゃありませんね？ それに俺は貴女の背後のガジェットをスクラップにしたいだけですけど。あと後方不注意は命取りですよ？」マスター、ガジェットです」あ？ アステリズム、マルチフォーム」

アステリズム「了解。」

アステリズムを通常の状態に戻し、アステリズムを再び振るう

玲「ムーンハーケン！」

すると巨大な斬撃が発生し、車両の壁を引き裂きながら進む。そしてその先の車両で爆音。

アステリズム「ガジェット、撃破確認しました。」

玲「そおかい。じゃ、頑張って下さいね♪」

玲はさっさと逃げたいので強引に話をまとめて天井に穴をこじ開けて呆然とする少女を無視して舞い上がった

玲「…俺あの人と上手くやれる自信が無いよ」

アステリズム「マスターはあのタイプの方が苦手ですからね」

玲「よく解ってるじゃん。」

アステリズム「私が何年貴方の剣をやっているとってるんですか？ 六年ですよ？」

そこに通信が入る

なのは「皆、お疲れ様。ガジェットは全部片付けたしレリックも確保からへりに戻ろうか」

玲「りょーかい」

そして玲はへりを見つけて乗り込んだ。どうやら皆はすでに乗っているらしい。なのはとリインの他にいるのはFW陣だろう

なのは「あ、ごめんね玲。急な任務で」

玲「今度何か甘味をおごって下さい。それでちゃらです♪」

なのは「…後でお話しようか？」

なのはがニコニコ笑っている。とびきり綺麗な、そしてとびきり黒い笑顔で

玲「あ、あはは。むしろ俺が奢っちゃったりして」

玲は咄嗟に言い逃れをする。そこに

リイン「玲く、久しぶりですう〜♪」

リインが頭に飛び付いて来た。

玲「ぐえ!?!」

頭に正面衝突し、一瞬視界を失うが、無理矢理引きはがして

玲「やあやありイン。今日もまた素敵に小さいぞ。」

リイン「むう！女の子は小さい方が可愛いんですよ！それにはやてちゃんだってシグナムとフェイトさんに比べたら小さいです！」

玲「いやそりゃね？シグナムさんとフェイトさんは女性の割には背が高いからね？」

そこでFW陣が切り出した

？「あのー、その方は…？」

青髪のボーイッシュな少女がなのはに質問する

なのは「にゃはは、ごめん。まだ紹介してなかったね。この子は如月玲三等空尉。まあ私達の弟分的な感じかな？あとティアナと同一年だね。今日から機動六課に出向してきたの。じゃあ玲、自己紹介しようか」

玲は「にへらへら」と笑うと

玲「こんにちへら、如月玲16歳です。あ、玲って呼んでくださいね。ちなみに好きな物は甘いものです。よろしくね。」

玲はへらへらと気の抜けた返事をする

スバル「スバル・ナカジマ二等陸士です！陸ポジはFA！スバルって呼んで？」

ティアナ「ティアナ・ランスター二等陸士です。CGです」

キャロ「キャロ・ル・ルシェ三等陸士です！ポジションはFBです。この子はフリードリヒ。フリードって呼んであげて下さい」

フリード「キュクウ！」

エリオ「エリオ・モンディアル三等陸士です！ポジションはGWです！」

玲「はーいよろしくねー。あ、エリオ？さっき見てたけどかつこよかった。それにキャロ、フリードすごかったね？」

エリキャロ「ありがとうございます！」

玲はその素直さに感嘆する

玲「素直でよろしい♪」

アステリズム「マスターとは大違いですね。昔はマスターもこうでした」

アステリズムが割り込んで来た。すかさず玲はアステリズムに抗議する

玲「余計な事を言うなよ」

FW陣はア然としている。当然だろう。マスターをいじるデバイス等そうはいない

そこで

スバル「玲ってランクは幾つ？どんな戦い方するの？」

エリオ「デバイスはどんなんですか？」

質問責めである。

玲「ランクはA A A+でリミットでA Aだね。このデバイスはアステリズムっていうんだよ。『三ツ星』って意味ね。戦い方は…まあ隊舎でのお楽しみ♪」

スバル「ええ〜！教えてよ〜！」

なのは「玲は中々強いよ〜？」

エリオとキャロとスバルは目を輝かせているが、ティアナは俯いている。

そして

ティアナ「なのはさん、如月三等空尉はF Wに加わるんですか？」

ティアナがなのはに尋ねる。あからさまに不機嫌だ。どうやら先程の件にご立腹らしい。しかし玲は微笑んで返答する

玲「ご安心を、俺は個人の遊撃がお仕事なんで。所属は…どこでしたっけ？」

なのは「部隊名はムーンライトだよ。あ、そろそろ着くからね。玲

ははやてちゃんの所に行ってくれるかな？」

玲「はーいはい。」

そして六課に到着。説明された自分の部屋に向かい、その後で部隊長室に向かう

玲「失礼します。」

そして部屋に入ると、はやて、守護騎士一同、フェイトが居た。そして玲はニヤニヤしながら敬礼をする。

玲「如月玲三等空尉、本日付けで機動六課に着任いたしました。よろしく願います。八神二佐、ハラオウン執務官、シグナム二尉、ウィータ三尉、シャル医務官、：ザフィーラ」

その言葉にはやては手をひらひらと振って笑いながら言う。

はやて「やめてやー！そんな堅苦しい！」

玲「そうですねー。めんどくさいですし。皆さん、お久しぶりです。」

とても尉官と佐官の会話ではない

フェイト「玲、ごめんね？いきなり呼び出しちゃって…」

玲「まあそこそ楽しかったですしいですよ。」

シグナム「久しぶりだな。最後に会ったのは…」

玲「まあ三ヶ月前くらいですかね？」

ウィータ「まあこれからよろしくな」

玲「はあい♪」

シャル「それにしてもその髪、またかわいらしくなっちゃってまあ…。」

玲「ふふん♪」

そこに通信が入る。相手はなのはのようだ

なのは「はやてちゃん、今いいかな？」

はやて「構へんよ？どうしたん？」

なのは「うん、玲の実力を見る意味で今から玲に模擬戦して欲しいんだけど。」

はやて「解った。今連れてくわ」

はやてが通信を切る

はやて「ほな皆、行こか？」

そして一同は訓練場に

なのは「じゃあ今から始めるんだけど…、ガジェットはやる必要な

いよね？」

玲「…できればガジェットで終わらせてほしいかも」

なのは「じゃあ模擬戦の相手は…、」

玲の意見は参考にされないらしい。しかし玲は最後の希望を込めて

玲「フェイトさんがいいなあ、な～んて…」

呟く

なのは「ん？なんでフェイトちゃん？」

なのはが首をかしげる

玲「だって、シグナムさんは恐いし、ウィータさんも恐いし、何よりなのはさんはすんごく恐いし…、その点フェイトさんは優しいから…」

玲が説明する

なのは「どういう事かな？」

なのはは笑っている。やはり美しくも真っ黒な笑顔で

そこでフェイトが笑って

フェイト「解った。じゃあ私がやるよ。」

玲「ありがとうございます…」

そして玲とフェイトはフィールドに入った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1099i/>

すとりいかあず～叙事的魔導師～

2010年10月10日04時35分発行